



●源氏物語の色の継続連載執筆者募集

「源氏物語の色」は、渋谷典子会員に依頼して、2020年2月13日のNo.170から連載を開始していただき、月に2回程度の掲載ペースで「桐壺」から始まり、一帖一編の形で原稿を寄せていただきました。

しかし昨年夏に渋谷典子会員が体調を崩され、32回目のNo.252の「梅枝」の帖を最後に休載となっております。そして、残念ながら、今後の執筆が難しい状況になりましたので、続きを執筆をしてくださる方を募集することに致しました。

一帖一編の形は踏襲し、「若菜」のような長編は分割する原則で、書いて頂きます。一編の字数は20字24行(480字)です。原稿料は申訳ありませんがお出しできません。

私が瀬戸内源氏で調べた、源氏物語に登場する色名は六十四と古今の日本文学作品の中でも稀有の多さで、日本の色彩文化を考える上で重要な文献と言えます。このように大切な源氏物語なので、是非、この通信の上でも完結させたいと考え、継続連載の執筆者を募集する次第です。

「梅枝」から後の帖の色を書いてみようと思われる方はメールでご相談ください。一月程度の期間をお待ちします。(永田泰弘)

●色彩教材研オンライン講座聴講者募集

第5回色彩教材研究会オンライン講座の聴講者を募集しています。締切：3月17日。

- ◆主題：「錯視と色彩」
- ◆日時：2022年3月19日(土)
13:30～15:00 (ZOOMのオンライン)
- ◆申込は下記よりご登録ください。
<https://forms.gle/5XhjGZkZr5T2ecqR7>
- ◆参加料：学会員と研究会準会員は無料。
- ◆講師：北岡明佳(きたおか・あきよし)氏
立命館大学総合心理学部教授。
- ◆講演要旨：本講演では、色の錯視を検討することで、色彩を考える。通常、混色を錯視とは言わないが、並置混色であればいくらか錯視的であろうか。並置混色は加法混色だけであると考え人が多いと思うが、減法混色もあるし、それと加法混色を接続する中間的な並置混色もあることを示す。さらに、それらとムンカー錯視との関係を明らかにし、並置混色の中に加算的色変換による色の錯視(強力な色の対比の錯視あるいは色の恒常性の錯視)を実装できることを示す。
- ◆一般の方は聴講料1,000円。振込期限：3月11日(金)。振込をもって申込完了です。振込先：ゆうちょ銀行 00180-6-395882
日本色彩学会色彩教材研究会宛 (永田泰弘)

●著書紹介「イタリアの伝統色」

◆著者：城一夫・長谷川博志
環境色彩監修協力：長谷川直美
2014年発行 バイ・インターナショナル刊
2,800円+税

この本の前半は、昨年夏に急逝された長谷川博士会員が、退職後、6年にわたりイタリアに季節移住をして撮影取材された「イタリア色彩紀行」と題した、22テーマの街の色彩景観の写真が主役となっている。

建築や街並みが、ローマ時代の石造建築から現代建築までの幅広い様式の調和と、地中海気候の陽光に照らし出されたカラフルな色使いが感じられる内容になっており、景観色彩の在り方を教える豊富な教材を見いだすことができる。直美夫人が環境色彩監修を担当されているのも微笑ましい。

本の後半は、城一夫名誉会員が、210色のイタリア伝統色を色名帳の形に編集されている。絵画、紋章、祭、風景、街並、インテリア、衣服、工芸、食品などの色名由来の豊富な写真に加えた解説とともに、マンセル値、CMYK、RGBなどの記号付きの色見本という実に豪華でカラフルな内容になっている。

「フランスの伝統色(2008)」と対をなす好著としてお勧めしたい。(永田泰弘)